

# 運動遊びの指導力を育む授業の在り方を探る

## －固定遊具を使った遊びの指導について－

齊藤 真由美 (龍谷大学短期大学部)

### 【要旨】

本稿は、筆者が担当する基礎技能Ⅰ（体育）における、「幼児期の運動遊びとその指導・固定遊具を使った遊び」の授業の実践報告である。本授業のねらいは、①主体的に固定遊具で遊ぶ子どもの姿をイメージし、遊びの大切さに気づく、②遊びの中で育まれている多様な動きや力を理解した上で指導する大切さを知る、③命を預かる責任を十分に感じ、安全面での配慮について知る、④遊びの大切さを誰もが分かるように伝える、である。このねらいを達成するための学生の主な活動は、①保護者からの相談に相手が納得するように答えること、②固定遊具の遊び方・その中で育つ力・安全面での配慮を記入したオリジナル資料を作成すること、③固定遊具で遊ぶ子どもの姿を画像で見て知ること、の3点とする。また、これらの活動の中で試みている工夫点は、①学生の学びが可視化できるようなアンケートや、指導前後の学生の考えが比較できる記入方法を活用すること、②保育者に求められる課題として保護者からの相談を取り入れること、③オリジナル資料は、具体的な子どもの姿や遊びの様子をイメージすることで作成できる資料とすること、④オリジナル資料は、作成後も見て学びを広げることができる図式化した資料とすること、⑤保育者の目線で子どもの姿をとらえることができる画像を見せると共に筆者のコメントを加えていくこと、の5点である。

【キーワード】 基礎技能Ⅰ（体育）、固定遊具、オリジナル資料、保護者からの相談、アンケート実施による授業改善

## I はじめに

現代社会の環境や人々の生活様式の変化等により、子どもの体力や運動能力の低下が指摘されて久しい。文部科学省は、平成19年から3年をかけて「体力向上の基礎を培うための幼児における実践活動の在り方に関する調査研究」を実施し、その成果を踏まえて平成24年には「幼児期運動指針」を公表した。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うと共に様々な活動への意欲や社会性、創造性等を育む事を目指した

ものである。「幼児期運動指針」の幼児期運動指針策定の意図中で「幼児期の運動は、一人一人の幼児の生活経験に応じた遊びの中で、幼児自らが体を動かす楽しさや心地よさを実感することが大切である」「幼児が楽しく体を動かして遊んでいる中で、多様な動きを身に付けていくことができるように様々な遊びの体験ができるような手立てが必要となる」「幼児教育に関わる人々が幼児期の運動をどのようにとらえ、どのように実施するとよいのかについて、おおむね共有していくことが重要である」という内容を記述している（文科省、2012）。幼児教育に関わる人々は「幼児期運動指針」の内容に課題意識をもって取り組んできたが、今も改善されたとはいいがたい。このような現状に対して杉原・河邊（2014）は、「遊びとは何かについて様々な考え方があり、遊びについての理解がきわめてあいまいで混乱している」「遊びの中でどのような能力が育つかが誰もが納得するような形で示されていない」と指摘している。この杉原・河邊（2014）の指摘は、注目すべき内容である。

スポーツ庁は、「平成 28 年度体力・運動能力調査」の調査結果分析をし、「幼児期に外遊びをよくしていた児童は日常的に運動し、体力も高い」と公表している（スポーツ庁、2017）。幼児期の外遊びに関心が向けられたことには賛同するが、幼児期の運動遊びの大切さへの理解が未だ浸透していないという意味でもあるように思われ、改善の必要性があると感じると共に、本授業がこれらに対応できる力を育成する授業でなくてはならないという責任も強く感じる。

筆者は本学短期大学部こども教育学科科目である基礎技能Ⅰ（体育）の授業を、今回はじめて担当する。上記の内容をふまえて、この授業で学生に必要な学びとは、自発的な活動としての「遊び」への理解を深めること、運動遊びを通して身につく多様な動きについて理解すること、運動遊びの中で育まれる能力を知り、それを見抜き必要な指導をしていく力をつけること、ではないかと考える。そこで本授業では、幼児期の運動遊びの指導を、①固定遊具を使った遊び、②巧技台・マットを使った遊び、③プールでの水遊び、④体操・ダンス、⑤かけっこ・リレー、という具体的な活動から捉える授業内容を計画した。

「幼稚園教育要領」は平成 29 年に改訂された。「幼稚園教育要領ハンドブック 2017 年告示版」では、今回の改訂のポイントを次のように三つあげている（無藤隆、2017）。一つ目は、「幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における幼児教育を共通に捉えること」である。目まぐるしい速さで変化し続ける現代社会に即した質の高い幼児教育をどの施設形態でも、全国どこでも同じ水準で確保できること」を目指している。二つ目は、「幼児期に育てたい資質・能力の“3つの柱”が示されたことであり、この資質・能力は、小学校以降の教科指導によるものとは異なり、遊びや生活を通じて一体的に育まれることが大

事である」としている。三つ目は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（様々な活動の中に表れる子どもの様子を具体的に示したもの）が示されたことである。子どもの自発的な活動としての遊びを中心とした幼児教育を通じて「10の姿」が育っていき、さらに小学校以降も持ち続けること」を目指している。

幼児教育に求められているこれらの内容は、筆者が計画している、遊びの中で育まれる能力に注目した授業内容の必要性を確信するものである。そして、「幼児期運動指針」でも示されている共通理解する必要性が叫ばれていることから、子どもの育ちに対しての危機感を持った取り組みが求められているというように受け止めたいと感じた。

このように授業に対する課題の大きさを自覚するものの、理論担当としての7回の授業の中で、どれだけのことができるのかについての難しさは計り知れない。7回を通した授業全体を視野に入れながらも、本稿は「固定遊具を使った遊び」を扱った1回の授業の取り組みに焦点をあてた実践報告とする。固定遊具に焦点をあてた授業内容及び授業展開を工夫することにより、どのような学生の姿が見られ、どのような学びが見られたかを明らかにし、よりよい授業の在り方を探っていくこととする。

7回の授業内容の中から「固定遊具を使った遊び」を扱った授業をなぜ選んだのかについて触れておきたい。近年は安全面から子どもたちが固定遊具を使って遊ぶ経験が減少してきている。固定遊具は、幼児期の外遊びを大切にする環境であることから、自然環境の代わりを担う役割を持っている。また固定遊具は、多様な動きや能力が獲得できる遊具であることから、幼児に経験させたい遊具である。保育の現場では、固定遊具について、子どもたちが繰り返し楽しんで遊んでいる遊具としての認識をもつ中、安全面を気にすることはあっても、そこで育まれる能力を重視して子どもたちの遊びを十分にとらえることができているとは言いがたい。ましてや学生には他の運動遊びよりもなおそのねらいがとらえにくいと思われる。そこで、固定遊具を使った遊びを十分に理解し、保育現場で必要とされる指導力を育むことの必要性を感じて、「固定遊具を使った遊び」を扱った授業を取り上げたのである。

## II 授業実践

### 1 授業名・対象者・実践日

授業名：基礎技能Ⅰ（体育）

授業実践日の対象者：こども教育学科2回生44名（Bグループ）

授業実践日：2017年9月28日

2回生の後期取得科目である「基礎技能Ⅰ（体育）」は、第1回目の授業において全員へのオリエンテーションを実施し、2回目以降、受講者をA・Bの2グループに分け、それぞれ理論（講義）7回、実技7回を実施した。筆者は理論の授業を担当した。理論の授業は、前半Bグループ44名、後半Aグループ47名の学生が受講している。学生の多くは、1回生の2月に教育実習（春期）、2回生の7月から8月に保育実習を経験している。そして10月10日からは教育実習（秋期）が始まる。本稿で取り上げるのは、教育実習（秋期）が始まる直前の9月28日に実施された授業である。

表1 授業計画

| 授業計画（オリエンテーションと理論について） |               |                        |
|------------------------|---------------|------------------------|
| 回数                     | 学 修 内 容       |                        |
| 1回目                    | オリエンテーション     | ・講義概要・授業の進め方・体育館使用について |
| 2回目                    | 幼児期の発達の特徴について | ・運動遊びの意義とねらいについて       |
| 3回目                    | 幼児期の運動遊びとその指導 | ①固定遊具を使った遊び            |
| 4回目                    | 〃             | ②巧技台・マットを使った遊び         |
| 5回目                    | 〃             | ③プールでの水遊び              |
| 6回目                    | 〃             | ④かけっこ・リレー              |
| 7回目                    | 〃             | ⑤体操・ダンス                |
| 8回目                    | 運動遊びの指導案作成    |                        |

## 2 授業内容及び授業展開の工夫

本授業、本授業の前週と次週の授業での工夫点を時間的な流れを追って表2にまとめている。

表2 授業内容及び授業展開の工夫一覧

| 時間の流れ           | 工夫点①～⑩における学生の活動内容                                               |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------|
| 9月14日           | 工夫① 事前アンケートに答える                                                 |
| 9月21日<br>14:30～ | 工夫② 前週の授業終了前に、固定遊具オリジナル資料に各固定遊具に於ける遊び方を考え、遊び名を記入する（○印）          |
| 9月28日<br>13:15～ | 工夫③ 保護者からの相談の回答を記入→ロールプレイ→回答に書き加える                              |
| 13:35～          | 工夫④ 固定遊具についての予備知識を持つ                                            |
| 13:40～          | 工夫⑤ 固定遊具オリジナル資料を作成する<br>・各遊びに於ける動き、育まれる力や感覚（◇印）<br>・安全面での配慮（□印） |
| 14:10～          | 工夫⑥ 実際に子どもが遊ぶ姿を映像で見る・保育者として子どもの姿をどのようにとらえるかの説明を聞く               |

|                            |                                                      |
|----------------------------|------------------------------------------------------|
| 14:30～                     | 工夫⑦ 配布プリント（筆者作成メモ）より，固定遊具に関する知識を得る                   |
| 14:40～                     | 工夫⑧ 授業始めに回答した保護者からの相談を，授業終わりに書き加える                   |
| 9月30日<br>13:15～45<br>(補講日) | 工夫⑨ 配布プリントから得た知識を固定遊具オリジナル資料に書き加え，完成させる（● ◆ ■ 印を付けて） |
| 14:40～                     | 工夫⑩ 固定遊具オリジナル資料を作成後アンケートに答える<br>本日配布→次週提出            |

### （1）授業内容及び授業展開の工夫・その① ～アンケートに答える～

合同オリエンテーション時に，アンケートに記入・提出の機会を持った。アンケートの内容は，固定遊具を使った遊び・巧技台，マットを使った遊び・プールでの水遊び・かけっこ，リレー・体操，ダンスについての質問及び知りたいこととした。どのような遊びがあるかという，自分で調べられること以外の記入とする。

アンケートを実施する目的は，学生の運動遊びのへ理解や興味の実態を知るためである。また，アンケートの結果を踏まえて，学生が本当に知りたいことについて，教員が授業で答えることが学生の真の学びになると考えた。学生自身も今後の授業内容に関心を持つきっかけになると思われる。そして，授業の中で教員ができるだけ学生の知りたいことに答えていきたいという趣旨を伝えることで，学生がアンケートに意欲的に答えるよう，導くことができるのではないかと考えた。

#### ①アンケート結果（B クラス 44 名）

アンケートの結果より，各運動遊びに対する質問数を下記の表3に，表4には本授業で取り上げる固定遊具を使った遊びについての質問を4つの内容に分けて示している。

表3 各運動遊びに対する質問数

| 各運動遊びの項目      | 質問数（複数質問あり） |
|---------------|-------------|
| 固定遊具を使った遊び    | 14          |
| 巧技台・マットを使った遊び | 4           |
| プールでの水遊び      | 16          |
| かけっこ・リレー      | 8           |
| 体操・ダンス        | 13          |
| その他（運動遊び全般）   | 24          |

表 4 固定遊具を使った遊びについての質問（質問数 14）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 安全面に対する内容（質問数 8）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに前から怪我をしないように注意をするのか、ある程度注意をして小さな怪我（こける、頭を打つ）をしてから注意をするのか、どちらがいいですか？</li> <li>・固定遊具を使った遊びでの大きな怪我を防ぐためにどのような声掛けをすればいいか？</li> <li>・固定遊具のどの遊具がどの年齢から使用するのが安全ですか？</li> <li>・ジャングルジムは落下等の心配があるけれども注意することは？</li> <li>・ジャングルジムの危険な遊びに対しての注意の仕方、また境界線は？</li> <li>・ジャングルジムで 3 歳児はここまでと登る高さが決められていたがどうなのか？</li> <li>・低年齢の子どもが高い所に登って危険に見えた場合での対応は？</li> <li>・ブランコで危険がないか見守らなければいけないが、ずっと見守るのは保育上難しいと思います。その間に危険がおこらないようにするためにはどうしたらいいですか？</li> </ul> |
| 遊びとしての考えを問う内容（質問数 3）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけっこ・リレー、体操・ダンスでの遊びはいくつか想像できますが、固定遊具を使っの遊びの想像が付きません。何かあるのでしょうか</li> <li>・固定遊具を使った遊びは、自由遊び以外で遊ぶことはあるのですか？</li> <li>・固定遊具を使った遊びは、自由遊びなどの時間に個々が遊んでいるイメージがあるが、クラス全体で遊ぶ方法はあるのか？</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 遊びの進め方を問う内容（質問数 2）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具からの発展遊びはありますか</li> <li>・固定遊具を使った遊びの進め方は？</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 固定遊具に於ける意義についての内容（質問数 1）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・安田式固定遊具を使われている園がありました。その利点、弱点はありますか？</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## ②アンケート結果から見えてきたこと

### (a) 各運動遊びに対する質問より（表 3）

質問数が一番多かった項目は、その他（運動遊び全般的）であった。質問の内容としては、運動遊び全般についてのルールの説明の仕方や、注意事項、指導の仕方、運動が苦手な子どもの対応などがあげられていた。各運動遊びの項目が挙げられていたにもかかわらず、全般的な質問となったのは各運動遊びを具体的に考える経験が少ないのではないかと考えられる。一つ一つの運動遊びを具体的に捉える授業内容を計画したことはやはり必要であると思えた。また、各運動遊びの中で質問数が一番多かったのは、プールでの水遊びであった。これは、7 月から 8 月の保育実習で水遊びに関わる経験があったことから具体的な質問を考えることができたのだと思われる。やはり、保育実習による保育現場での体験は大事である。そして、2 番目に多かったのは、固定遊具を使った遊びであった。これは、比較的どこにもある遊具であり、自分が遊んだ経験からもイメージがしやすく、具体的な質問として考えることができたのだと思われる。3 番目に多かったのは、体操・ダンスであった。これは、遊びとしてイメージしやすく、また、自分が指導する場合の曲の選び方や遊びの始め方、指導の仕方を具体的な質問として考えやすかったことによるものと思われる。逆に、質問数が一番少なかったのは、巧技台・マットを使った遊びであっ

た。質問数が少なかった理由は、巧技台での遊びというものがイメージできにくかったからではないかと思われる。2番目に少なかったのは、かけっこ・リレーであった。これは、遊びとしてよく知っており、遊び方もわかりやすく、質問があまり浮かばなかったのではないかと考えられる。

(b) 固定遊具を使った遊びについての質問より（表4）

質問は4つの内容に分けて捉えることができた。一つは、安全面に対する内容であり、この内容が最も多かった。学生は、固定遊具に対しては落ちる、怪我をするというイメージを持っていることがわかる。授業では、学生が心配している点に重点を置いて伝えていくことと、どうすれば良いのかを答えるだけではなく、幼児の発達や、その遊びの中で育まれる力とのつながりの中で答えを見つけていけるような伝え方をするべきであると感じた。次の項目にあげたのは、遊びとしての考えを問う内容、その次は遊びの進め方を問う内容である。この2項目の内容からは、固定遊具は個々に自由な遊びの時間の中で遊ぶものだというイメージを持っていること、そこにあまり指導の重要性を感じていないことに気づかされる。学生は実習において、任された一斉活動の指導をすることで頭がいっぱいになることが多く、自由な遊びの時間の中で育まれる力の大切さや、その指導の大切さへの注目度が低いように思われる。学生には、自由な遊びの中で子どもの姿にもっと注目させる必要性を改めて感じた。また、固定遊具に於ける意義についての内容があり、固定しているからこそその意義や移動できることの意義を伝えるべきだと思った。

アンケート結果からは、様々なことが見えてきた。アンケートを授業前に実施することの必要性を再確認し、アンケート結果は、授業前にまず学生の実態を知ることや、そのことを授業に生かすべきであることを示唆してくれるものであった。

(2) 授業内容及び授業展開の工夫・その② ～次週の授業内容である各固定遊具における遊び方を考える～

本授業の前週の授業が終了する15分前には、「固定遊具のオリジナル資料」用紙を配布し、各遊具（ブランコ、すべり台、ジャングルジム、うんてい）での遊び方を考えて、記入する時間を持った。そして、次週までに遊び方の記入を終えておくことや、次週は必要な内容を書き込んでこの資料を完成させていくことを伝えた。さらに、1回目の授業より参照している「基本動作とその分類の図」を必ず持参することも伝えた。

上記のようなことを学生に伝える理由は、来週の固定遊具を使った遊びへの興味を持たせ、自ら学ぼうとするや意欲や目的意識をもって受講する姿勢が持てるようにするためである。

### (3) 授業内容及び授業展開の工夫・その③ ～保護者からの相談に答える～

本授業の初めに、誰もが遊んだことのあるブランコを話題にし、保護者から表5に示したような相談を受けたらどのように答えるかを学生に質問した。来春から多くの学生が保育の現場に就職するため、保護者からの相談に答えるということが、学生にとって現実問題として受け止められるように、真剣に質問した。そして各自がじっくりと考えられるよう記入用紙を配布し(表5)、相手をより意識して答えようとできるよう話し言葉での記入とする。

保護者からの相談に対してどのように答えるのかを学生に問うことの目的は、保育現場において、保育者に運動遊びの指導力があれば、適切な保護者対応が出来ることに学生に気づいてもらうためである。また、授業のはじめに保護者からの質問に対する回答を記入することにより、保育現場を具体的にイメージして、固定遊具オリジナル資料作成に取り組んでいけるのではないかと考える。

表5 質問紙〈保護者からの相談に答えてみよう〉

〈保護者からの相談に答えてみよう〉

あなたは、4歳児の担任をしています。6月のある日、保護者から相談を受けました。どのように答えますか？

保護者「先生、ちょっとご相談が…。幼稚園は楽しいと言っているのですが。私が『今日は何して遊んだの?』と尋ねると、いつもあの子は『ブランコで遊んだ。ひとりで』と言うのです。もっと違う遊びもしてほしいし、お友達とも遊んでほしいし…。先生はどう思われますか?」

表6 保護者からの相談への回答(授業始めの回答)の一例

〈保護者からの相談に答えてみよう〉(授業始めの回答)

担任「心配になりますよね。でも〇〇ちゃんはブランコで遊ぶのが大好きみたいです。外遊びに行くと伝えるととても嬉しそうにブランコに走っていきます。また、ブランコに乗っている時に、隣のお友達とどっちが高くこげるか、とても楽しそうに遊んでいます。〇〇ちゃんは、お友達とも仲良く遊べますし、一人でも大好きな遊具で遊ぶことができるんですよ。また心配になったら、いつでも私に言ってきてください。私も〇〇ちゃんが楽しく元気に遊んでいるか見守っておきます。

表6は一人の学生の回答である。表6からは、保護者が安心できるような話し方、4歳児6月の発達段階をとらえた答え方をしていることがわかる。表6に示した以外の、他の学生の回答も、筆者が思っていた以上に保護者対応ができていることに感心させられた。他の学生の答えには、今はブランコが好きで自分が好きな遊びを十分に楽しむことは大切だということ、一人で遊ぶことを楽しむ時期も大切だということ、ブランコは一人の遊びのように見えてもまわりの子どもとのかわりがあるということ、他の遊びもしているということなどの内容が多く見られた。記入後には、筆者が保護者、学生が担任となって実際に対話する機会を持つ。時間的な都合で2名の発表に留まったが、各自の良さを認めるこ

とで2名の学生の自信に繋がったように感じた。また、2名の発表を見聞きしていた学生たちにとっては、自分とは違う回答があることに気づくなどの、よい刺激になっていたように思われた。

また、この保護者の相談に答える試みは、本授業でブランコを使った様々な遊びやそこで育まれる力等について学んだあと、もう一度考え書き加える機会を持つ。これによって、授業での学びが実践に繋がることを学生自身が気づくことを期待するものである（表8）。

#### （4）授業内容及び授業展開の工夫・その④ ～固定遊具への予備知識をもつ～

固定遊具に対するある程度の知識を持って、オリジナル資料作成に取り組むことができるよう、以下の内容について伝える。

- ・ 固定遊具を使って遊ぶ中では様々な動きが必要となり、体全体を動かす運動的活動の遊具として用いられる
- ・ 友達と一緒に遊ぶことも楽しく、社会性を身に付ける場となる
- ・ 自然環境の変わりを担う役割がある
- ・ 遊びの拠点としての機能を担う

#### （5）授業内容及び授業展開の工夫・その⑤ ～固定遊具のオリジナル資料を作成する～

工夫その②で述べたように、前週より記入している固定遊具の遊び方に対して、そこで育まれる動きを「基本動作とその分類の図」を参考にして書き加えていく。育まれる力や感覚、その遊具あるいは遊び方での安全面の配慮についても書き加えていく（○印：遊び方 ◇印：動きや育まれる力や感覚 □印：安全面での配慮）。紙面に向かうだけではなく楽しんで考えられるよう隣の学生と話しながら考えても良いとした。

この作業における所要時間を20分程度としていたが、これが誤算であった。学生には、遊びに対して育まれている動きや能力ということがわかりにくい様子で、考え込んだり、自分の体を遊びの動きのように動かしながら探ってみたりしていて、予想以上に時間がかかってしまった。各自の考えが広がるよう、記入した内容を数人の学生に伝えてもらい、自分では気付かなかった内容があれば記入することにした。

オリジナル資料は図式化の効果をねらうものである。見てわかりやすいのは勿論であるが、さらに内容毎に印（○◇□）を付けることで自分の知りたい内容がすぐにわかること、幼児が遊ぶ姿がイメージしやすいこと、今後もわかったことを書き加えてさらに豊か

な資料にしていけることがねらいとしてあげられる。また、各自がオリジナル資料を作成することに意味がある。自分で考えたことや知ったことを、オリジナル資料を作成することを通して文字化することにより、自分の確かな学びとなり、資料がオリジナルであるが故に、今後大切に使うことが期待できると考える。

# (6) 授業内容及び授業展開の工夫・その⑥ ～実際に遊んでいる画像を見る～

筆者が6月にK幼稚園で撮影した画像をスクリーンに写し(全34枚)、その場面から子どものどのような姿が読み取れるかを説明していく。説明を加えることで、何気ない動きのように見えても、よく見ると、子どもが何を楽しんでいるのか、意識しているのか、どこに力が入っているのか、体のどの部分を使っているのかということに気付くことの大切さを伝えたいと考えた。実際の画像を見ることで、オリジナル資料の作成を単なる作業としてではなく、子どもの姿とつなげながら保育者としての思いを持って、作成してほしいと考えた。

表7 画像例と説明内容

|                              |                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4歳児女児がブランコで反対を向いて座りこぎをしている画像 | 「なぜ反対を向いているのかと不思議ですよね。遠くで見ているだけではわからないのですが、近づくとも、女児はだんだん強くこぎ出し、「ウメに届くよ」と言いました。後ろにはウメの木が葉を広げていて、ブランコをこぐ女児の足の先がウメの葉に触れていました。ウメの葉まで届くようにという距離的なねらいをもち、そこに足先が触れる感触で届いたことを実感し、自分は大きくこげると確信しているのです。保育者が共感することで、女児の喜びや自信が広がります」 |
| 3歳児男児がすべり台を滑る種に階段を上がっている画像   | 「容易く上げられる階段ではないのですが、すべり台を滑りたいから、先生や友達と一緒に滑りたいから、意欲的に上がっていきます。階段の上り下りだけをして鍛えようとしてもこのような積極的な姿は見られませんよね。握る手、踏み込む足やおしりに力が入っていることがわかります。すべり台は、滑ることだけではなく、階段を上がる姿、そこで育まれる力にも注目してください。また、階段を上がりたどり着いたことで高さも実感していくでしょう」          |

# (7) 授業内容及び授業展開の工夫・その⑦⑧

## ～授業担当者作成資料から理解を広げる・オリジナル資料に書き加える～

学生には、筆者が各固定遊具について考え調べた内容を箇条書きにした資料を配布した。その際、学生には、筆者の作成した資料を読んで内容を理解し、必要だと思ったことを自分のオリジナル資料に書き加えることで、自分の学びとなることを伝えた。しかし、本授業内でオリジナル資料を完成させることは時間的に無理があるので、読んで理解してくることを宿題とし、次週の授業前半の時間に書き込んで完成させることとした。オリジ

ナル資料には、自分で書き加えた内容がわかるように、塗りつぶした印（●◆■）を使うことを伝えた。

印に違いをつけたのは、理解が広がることで作成内容が豊かになっていく様子が明確に見えるようにという工夫である。オリジナル資料が作成できた満足感に共感しながらも、子どもたちが遊び込み、遊びが多様化していくような指導へとオリジナル資料を生かしていくことが最終目標であることを学生に伝える（図 1-A, 図 1-B）。

図 1-A, 図 1-B は、一人の学生が作成した A3 用紙に手書きしたオリジナル資料を本文に載せるために編集を加えたものである。

## （8）授業内容及び授業展開の工夫・その⑧

### ～保護者からの相談に答えた内容を見直す～

授業始めに、保護者からの相談に答えるという作業を行った。授業の後に、もう一度保護者からの相談に答えた内容を見直す機会を持ち、加筆・修正することがあれば、用紙に記入するよう学生に伝えた。これは、筆者が授業での学生の学修効果を評価するための試みである。授業始めの答えも納得できるものであったが、ブランコで育まれる動きや能力に関する内容はほとんど見られなかった。その点を、授業を通して学ぶことができたかどうかを重視したいと考えた。また学生にとっても理解が広がり、自分の言葉でよりよく話すことができたという自信や満足感を持ってほしいと考えたからである。

学生が付け加えた内容は、体の動きや育まれる能力などに関するものがほとんどであ

表 8 保護者からの相談・授業終わりの回答の一例

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈保護者からの相談に答えてみよう〉（授業終わりに付け加えた部分の回答）</p> <p>担任</p> <p>「ブランコは、足でこぐ力や、体全体を使って屈伸する力など、遊びの中で自然と身につけています。また、どのくらいのスピードなら安全に遊べるかという範囲を体験の中で学び、判断することができます。一人に乗っていても他の友達が待っていたら乗りたいという気持ちの折り合いをつけ交代することでルール、社会性を身につけています。一人で遊んでいるようでも周囲の友達を見て、自然と関わっています。ブランコに乗っているだけのように見えて〇〇ちゃんはしっかり成長していますよ。これからも〇〇ちゃんの様子を伝えていきますね」</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

る。また、学生の記述内容は、屈伸力・筋力・運動機能・平衡感覚・バランス・リズム感・スピード感・判断力・決断力・コントロール力・危険に気づく力・チャレンジ精神・社会性などの具体的な言葉を使っており、学生にとって確かな学びとなっていく様子が見られた。

# (9) 授業内容及び授業展開の工夫・その⑩

## ～オリジナル資料作成後アンケートに答える～

### ①アンケート結果

表 9 質問紙〈アンケート・固定遊具オリジナル資料を作成して〉

|                                                   |              |
|---------------------------------------------------|--------------|
| 〈アンケート・固定遊具オリジナル資料を作成して〉                          |              |
| 1. 固定遊具オリジナル資料を作成した後、固定遊具を使った遊びに対する考えが以前と変わりましたか？ |              |
| ① 変わった → 2へ                                       | ② 変わらない → 3へ |
| 2. どのように変わりましたか？                                  |              |
| 3. なぜ変わらなかったのだと思いますか？                             |              |
| 4. 固定遊具オリジナル資料は、今後役に立つと思いますか？                     |              |
| ① 思う                                              | ② 思わない       |
| 5. それはなぜですか？                                      |              |
| ★「固定遊具を使った遊びの指導」を受講しての感想を何でもかいてください。              |              |

質問項目 1. の結果は、①遊びに対する考えが変わった学生、②遊びに対する考えが変わらない学生であった（提出者 35 名）。質問項目 2. のどのように変わったのかについては、固定遊具を使って遊ぶことで育まれる力や感覚があること、体力がつくこと、いろいろな体の部分を動かしていることがわかったことによる変化をあげた学生、様々な遊び方があることが分かったことによる変化をあげた学生、安全面での配慮を知ったことによる変化をあげた学生、固定遊具で遊ぶことの大切さを知ったことによる変化をあげた学生、詳しい内容まで勉強できたことによる変化をあげた学生であった。具体的な回答については以下の表 10 に示す。

表 10 どのように変わったのかに対する回答

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 体の動き、育まれる力、発達などを知ったことに関する内容 11 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで経験として固定遊具で遊んだことはありましたが、それによってどういう力が養われるのか考える機会はなかった為、どういう効果があるか考えられた</li> <li>・今まで当たり前のように遊んでいた遊具でしたが、一つ一つ使っている筋肉であったり、友達とのかかわりであったり、そういったものが違うことに気づきました。遊びのねらいを持って遊具で遊べそうです</li> <li>・「固定遊具＝遊び」というイメージが私の中にはありましたが、授業を受けるなかで、足腰を鍛えたり、バランス感覚を養うこともできる「万能な遊び」だという風なイメージに変わりました</li> </ul> |
| 様々な遊び方を知ったことに関する内容 9 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具を使った遊びは少ないと思っていたけれども、いろいろな意見を聞いて多いことを知ったので</li> <li>・思っていたよりもどの固定遊具も様々な遊び方があるのだとわかり、遊びが繋がったりすることが面白いと感じました。「この遊具はこう遊ぶ」という固定概念を捨て、童心に返ってたくさん視点で考えることが大切だとわかりました</li> <li>・遊びのレパートリーが増えた</li> </ul>                                                                                       |

|                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 安全面の配慮を知ったことに関する内容 3名                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具をただ置いているだけではなく、安全面も考えてマットを敷いたり柵があったりすることを当たり前のように思っていたが実は違うことがわかった</li> <li>・安全面での配慮で自分が思いつかなかった配慮がたくさんあり、この固定遊具にはこんな配慮があったのだと知ることができて、これから遊ぶ時はこんな所に気を付けようと思うようになりました</li> </ul> |
| 詳しい内容を知ったことに関する内容 4名                                                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・そんなに深く考えていなかったけれども、どの遊具にもねらいがあることを知った</li> <li>・ただ遊ぶだけでなくしっかりと意図があるのだと感じた</li> </ul>                                                                                                 |

質問項目3. のなぜ変わらなかったのかについては・ブランコやうんていなど知っていたため変わりませんでした・元々興味があったから・知っている事も多かったため、なるほどと思いました、という回答であった。変わらないことは、以前から固定遊具への興味や知識があったこととして受け止めたい。質問項目4. の結果は、①役に立つと思う学生が35名、②役に立つと思わない学生は0名であった。質問項目5. の今後役に立つ理由については表11に示す。

表11 固定遊具オリジナル資料が今後役に立つ理由

|                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="radio"/> 記入項目（遊び方・動き・育まれる力や感覚・安全面での配慮）をあげて役立つとしたもの<br>・遊びのレパートリーを知ることが出来たため<br>・それぞれの固定遊具で遊ぶ時にする動きや育まれている力が書いてあるため、この遊びは子どもたちにとってどの発達に役立っているのか、こういった配慮に気をつけていいのかわかるから<br>・どこに注意して安全を見守れば良いかがわかるので、見守る立場でも安心出来ると思うから |
| <input type="radio"/> 保育現場での固定遊具の必要度をあげて役立つとしたもの<br>・現場に出ると必ず固定遊具での遊びが必要になると思うから<br>・固定遊具がある遊び場は多いと思うので使えそうだから                                                                                                                   |
| <input type="radio"/> 実習や就職園での必要性をあげて役立つとしたもの<br>・実習に行った時により細かく子どもたちの動きを見ようと思えたし、固定遊具の遊び方をもっと考えてみようと思えたから<br>・希望する就職先では市が「運動遊び」を推奨しているから                                                                                         |
| <input type="radio"/> 資料の完成度をあげて役に立つとしたもの<br>・自分の考えと先生の考えをまとめられたので、実際に困った際に役立つと思ったから<br>・先生や友だちの意見を知り、さらに深まった資料になったため                                                                                                            |
| <input type="radio"/> 図式化した資料によさをあげて役立つとしたもの<br>・それぞれの遊具で育まれる力や感覚について見てわかるから<br>・見ただけで、注意しないといけないうことやどんな力がつくかがわかり、子どもにとってどんな遊び方がいいかを考えられるから                                                                                      |

## ②アンケート結果から見えてきたこと

アンケート結果から見えてきたことは、次の5点である。

- 1) 学生は、オリジナル資料の記入項目である遊び方、動き、育まれる力や感覚、安全面での配慮について知ることの必要性に気づいており、オリジナル資料はこの気づ

## 運動遊びの指導力を育む授業の在り方を探る

○立ちこぎをして遊ぶ

○靴をとばして遊ぶ

○二人乗りをする

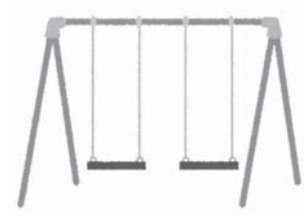
◇立つ・立ち上がる

◇とび降りる

◇こぐ

◇つかむ

□前後に人がいないか確認する



●一人で座り,後ろから保育者に押してもらう

→ゆらゆら揺れる感覚を楽しむ

自分でこげるようになると立ちこぎ・二人こぎをする

→より高く大きく揺れることを楽しみ,競う

◆足でこぐ力,体全体を使って屈伸する力,平衡感覚,  
空中にいる時のリズムカルな動きやスピード感,快感を味わう

◆揺れに対する恐怖感をなくす

◆揺れで体の重心が変わることに慣れる

◆筋肉の発達を助ける

◆社会性が身につく

◆体のコントロール力が身につく

◆チャレンジ精神が身につく

■ブランコが揺れている時に前を横切ると大変危険

→ブランコのコーナーに柵やブランターを置いて囲いをすること  
が必要

■ブランコの下の土を柔らかくしておく

■鎖,ねじの点検。板の破損や腐食の点検。定期的に注油する

■ブランコの周りに遊具を置かない

○上から座って滑る

○下から登る

◇登る

◇滑り降りる

◇よじ登る

◇立ちあがる

◇寝ころぶ

□両側の手すりをしっかり持つように声をかける



●階段を上って反対側から滑るという一連の流れ  
を楽しむ

●スピードをつけて滑走面を滑る

●数人で一緒に滑る

●鬼ごっこの途中で利用する。すべり台の下に隠れ  
る

●下の場所で砂遊びをする

●基地にする

◆基本動作(つかむ・しゃがむ・のぼる・すべりおりる・くぐる・ささえる・ぶらさがる・  
もたれる・走る・よじのぼる)の安定性,移動動作,操作動作の全てが出現

◆「高さ,狭さ,角度,一方通行性,強さ,堅さ」をもち,性別によって好まれる遊びが違う  
こと,年齢が高くなるにつれて遊び方が多彩になる

◆性,年齢,遊びの種類に関わらず,階段をしっかり登る脚力が運動能力につながる

◆滑ることで背筋が伸びておなかに力が入った姿勢を保つバランス感覚が身につく

◆経験を重ねることで,スピード調整を覚え,安全に対する感覚が養われる

■板がささくれたり,腐ったりしていないか点検をする

■滑り降りたところに遊具,物などがないか,よく見る

■さび,ボルトのゆるみ,腐食などの点検をする

■玩具やリュックなどを持って上がらないように注意する

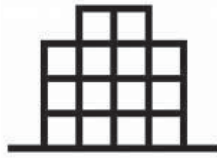
○印：遊び方

◇印：動きや育まれる力や感覚

□印：安全面での配慮

図 1-A 固定遊具オリジナル資料

- 上まで登る競争をする
- 中で鬼ごっこをして遊ぶ
- ◇のぼる、あがる
- ◇おりる
- ◇もたれる
- ◇くぐる、くぐりぬける
- 落ちないように見守る



- 鬼ごっこの逃げる場,高鬼,基地,  
おうちごっこの場
- 地面の砂で遊ぶ
- 物を立てかけて傾斜を作って遊ぶ
- 縄を結んで長縄跳びをする

- ◆登る,降りる,ぶら下がる,つかむ,しゃがむ,這う,バランスをとる,とび降りる,  
かわす,まわる,斜め登りや斜め下がりなど3次元的な体の動かし方をする
- ◆立体的に体を使うことで体の空間での位置関係を学ぶ
- ◆目で見なくても頭がどの辺に位置するかを感じ取り,ボールに当たらないようにくぐりぬけるに  
は体をどう動かせばよいかを学ぶ
- ◆運動機能が発達
  - 普段の生活ではあまり使われない筋肉がたくさん使われる
- ◆バランスをとる感覚が育つ。高さにも慣れることができる
- ◆一番上に登れば,園庭を見下ろすことができ,スリルや面白さを体験できる。同時に高い所に登  
った達成感を味わうことができる
- さびや腐食部分がないか,地面から浮いていないかを点検する
- 定期的に塗装する。
- しっかりボールを握るように,玩具などを持って登らないように注意する
- 跳び降りようとしてあごをボールで打つこともあるので注意する
- 下にゴムマット,ウッドチップ,人工芝等を敷くと良い
  - 上に登って立つ
  - ◇ぶらさがる
  - ◇とびつく
  - ◇立ち上がる
  - 足を引っ張らないよう見守る
- ぶらさがって身体に反動をつけながら(身体や足をゆさぶり)前進する
- 上に登って渡り歩く。上に登ってからぶら下がったり,くると回ったりする
- ◆身体揺さぶり,高さの感覚に慣れる
- ◆移動時の筋力や瞬発力をつける
- ◆うでを伸ばしてぶらさがることにより,背筋をまっすぐにし,胸を広げる
- ◆胸部と肺の成長を促し,より成熟した呼吸機能,より多くの酸素が脳に供給されるようになる
- ◆握る力から運動能力が育つ
- うんていの下にゴムマット,人工芝,ウッドチップなどを敷く
- 上に腰をかけていて横棒の間からすりぬけて落下することがある。後ろ向きに落ちるので,受け身  
ができない。上腕部を骨折することもある



図 1-B 固定遊具オリジナル資料

きを促す資料となったことがわかった。

- 2) 学生は、保育の現場や実習での固定遊具の必要性を感じており、授業内容に固定遊具を使った遊びを取り入れる必要があることがわかった。
- 3) 学生は、オリジナル資料作成の際、自分の考えを記入するだけでなく、担当者や他の学生の考えを参考にして書き加える方法をとったことによって、オリジナル資料がより良い資料になったと考えていた。このことから、本授業で行ったオリジナル資料の作成方法は、適当であったと思われる。また、学生がよりよい資料が作成出来たと満足することは、自分の学修効果を実感することであり、オリジナル資料を大切に使うという姿勢にも繋がるものであると考える。
- 4) オリジナル資料が図式化した資料であったことに対しては、「見やすいから」と言う答えが多く、図式化することの良さを伝えている。他にも「見てわかるから」ともあるが、図式化しているからとは書いていなくても、「見て思い出したい」「今後見返したい」などの文面から、学生は図式化の良さを感じていることが読み取れる。
- 5) アンケートの最後に固定遊具を使った遊びの指導を受講しての感想記入欄を設けている。その中にも、オリジナル資料に関して学修効果があったことをあげている学生が多くみられた。また、筆者が注目したのは、固定遊具に対する自分の今までの考えをあげ、授業後の変化を実感していることである。例えば、ある学生はアンケートの書き出しにおいて、「今までは固定遊具について考えることがなかったのですが、授業を受けるまではただの遊びというイメージだったのですが」と書いている。また、ある学生は同じくアンケートの書き出しにおいて、「今までは園庭の広い環境の中でどのような部分に注目して見ればよいのかわかりませんでした」と書いている。このことから、固定遊具を授業内容に取り入れる必要性を感じると共に、学生が学修効果を実感している様子が伝わってきた。また、アンケートの書き終わりに注目すると、「これからの保育の中で子どものことをもっと理解出来るようになると思います」といった感想や、「子どもの様子をしっかりと保護者に伝えられるようにしたいと思った」、「保育の現場に入り授業で習ったことを活かしたいと強く感じました」、「子ども達のことをもっと理解できるようになると思いました」などの記述が見られた。学生たちは、学びを力にして今後に向けての自信や意欲につないでおり、その姿に拍手を送りたい気持ちであった。

### Ⅲ おわりに ～本授業の成果と課題～

本稿では、基礎技能Ⅰ（体育）の授業内容や授業展開の工夫を中心に実践報告を行った。工夫点（①～⑩）による成果としては、筆者が学生の学びの実態を把握しながら授業を展開したことが有効であったことがあげられる。また、もう一つの成果としては、学生が保育者としての責任や自覚を持ち、具体的に子どもや保護者にかかわる姿をイメージしながら自主的に学び、その学びを次につないでいこうという意欲を持たせることができたことである。

こうした成果があったことは評価できるが、課題も残った。それは、工夫した内容に対する授業時間が適当でなかったことである。運動遊びの指導力を育むべく、筆者が学生に伝えたい内容を詰め込みすぎた感がある。本授業内容と時間配分の見直しを課題とした。そして、本授業での学びがその後の各運動遊びの授業にどのように繋がっていったのかを明確にしながら、本授業だけでは言い得ない、基礎技能Ⅰ（体育）の授業全体の在り方をさらに検討することも必要であると考えた。また、筆者の幼稚園現場での経験を生かしながらの取り組みではあったが、自分だけの考えに留まらないためにも、様々な文献から知識を得ることを今後の課題として受け止めている。

#### 【引用文献】

- 杉原隆・河邊貴子編著（2014）『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』ミネルヴァ書房，31頁。  
 スポーツ庁（2017）「平成28年度体力・運動能力調査」2017年10月9日取得。  
[http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k\\_detail/1396900.htm](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1396900.htm)  
 無藤隆監修（2017）『幼稚園教育要領ハンドブック2017年告示版』株式会社学研教育みらい，8-12頁。  
 文部科学省（2012）「幼児期運動指針」2017年4月11日取得。  
<http://www.mext.go.jp/sports/undousisin/1319192.htm>